

## 事業報告

(平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日まで)

### I 当法人の現況に関する事業

#### 1 事業の経過およびその実績

(単位:千円)

事業別	当初予算額	決算額	実施割合
育英奨学事業 (注)	113,845	108,645	95.4%
学術研究等助成事業	22,215	21,484	96.7%
資料館庭園運営管理事業	38,580	34,532	89.5%

(注) 育英奨学事業には貸与奨学金(予算: 57,750 千円 決算: 55,750 千円)を含んでいる。

#### 2 直前事業年度の財産および状況

(単位:千円)

区分	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度 (当該事業年度)
経常収益	171,182	179,498	169,597
評価損益等調整前 当期経常増減額	15,674	11,756	14,924
当期経常増減額	20,788	△13,869	△243,923
正味財産期末残高	4,382,174	4,349,165	4,089,530

#### 3 主な事業内容

事業	主要な事業の内容
育英奨学事業	奨学生の無利子貸与および給付 奨学生集会の開催
学術研究等助成事業	自然科学の研究に対する助成 自然環境保護活動に対する助成
資料館庭園運営管理事業	郷土資料館の運営 庭園・山林・遊歩道の整備
不動産賃貸事業	共同住宅の管理運営

4 従たる事務所の状況

名称	所在地	事業内容
東京事務所	港区新橋 5-6-4-701	首都圏の大学等への当会事業の周知 収益事業である共同住宅の管理

5 収益事業に関する事項

集合住宅名称	所在地	建物内容	入居者数	管理会社
コ一ボ順	東京都世田谷区	鉄筋 4 階建 771.03 m <sup>2</sup>	8 戸	(株)日立不動産

6 重要な契約に関する事項

契約年月日	相手方	契約期間 契約金額	契約の概要
平成 24 年 4 月 1 日	EY 税理士法人	1 年間 (毎年更新) 1,200,000 円	定期提出書類の作成支援業務 会計等に関する相談業務

7 職員に関する事項

職名等	氏 名	就任年月日	担当事務
事務局長	山崎 壽浩	平成 7.6.5	事務局総轄
管理部長	原 久晴	平成 17.4.1	本部事務・会計・資料館管理
一般事務	荒井 能弘	平成 22.9.1	奨学金・研究助成金・庭園管理
一般事務	渡部 夕子	平成 2.4.1	東京事務所の事務・資料館管理
一般事務	山口 広美	平成 13.2.20	建物内管理・事務所庶務

## 8 役員会等に関する事項

### (1) 理事会

開催年月日	議事事項	会議の結果
平成 27. 5. 28	平成 26 年度事業報告・計算書類等承認について	承認
〃	第 4 回定期評議員会招集および提出議案について	可決
〃	平成 27 年度新規採用奨学生選考について	可決
〃	平成 27 年度学術研究助成について	可決
〃	平成 27 年度自然環境保護活動助成について	可決
平成 28. 3. 22	平成 27 年度学術研究助成事業について	承認
〃	平成 28 年度事業計画について	可決
〃	平成 28 年度予算について	可決
〃	評議員選定委員の選任について	可決
〃	次期評議員候補者の推薦について	可決
〃	「資料館改修工事積立資金規程」について	承認
〃	選考委員 1 名辞任による 1 名選任について	可決

### (2) 評議員会

開催年月日	議事事項	会議の結果
平成 27. 6. 18	平成 26 年度事業報告の内容報告について	了承
〃	平成 26 年度計算書類等の承認について	承認
〃	理事の任期満了に伴う選任について	可決
〃	監事の任期満了に伴う選任について	可決
〃	「評議員運営規則」の制定について	可決

## 9 株式を保有している場合の概要

企業名	保有株式数	保有割合	入手経過	企業との関係
JX ホールディングス	3,656,190 株	0.1 %	寄付受入	取引なし
北越メタル	278,000 株	1.4 %	寄付受入	取引なし

## 10 対処すべき課題

無利息貸与奨学生の返還が当初計画のとおり履行されていない者が毎年発生している。本人に事情を聴取し連帯保証人に対しても返還協力を依頼し、事情により返還計画を変更する対応を行っている。

収益事業において、建物の老朽化による修繕費の増加と家賃の減少により、収益の減少が今後予想されるので、事業を継続するかどうかの検討が必要になる。

## II 役員等に関する事項

### (1) 理 事

役職名	氏 名	任 期	常勤・非常勤	報酬等	備 考
理事長	山口敬太郎	2年	常 勤	規程による	選考委員兼務
常務理事	山崎 壽浩	2年	〃	〃	事務局長 選考委員兼務
理 事	三角 哲生	2年	非常勤	〃	二階堂学園理事長
〃	森地 茂	2年	〃	〃	
〃	若杉 敬明	2年	〃	〃	
〃	一色 誠一	2年	〃	〃	

### (2) 監 事

役職名	氏 名	任 期	常勤・非常勤	報酬等	備 考
監 事	高橋 實	2年	非常勤	規程による	
〃	西尾 進路	2年	〃	〃	

### (3) 評議員

役職名	氏 名	任 期	常勤・非常勤	報酬等	備 考
評議員	江中八洲彦	4年	非常勤	規程による	
〃	古瀬 裕	4年	〃	〃	選考委員兼務
〃	福壽 道夫	4年	〃	〃	
〃	丸山 武	4年	〃	〃	
〃	佐藤 浩治	4年	〃	〃	
〃	高橋 清逸	4年	〃	〃	
〃	林 久	4年	〃	〃	
〃	岩野 宏	4年	〃	〃	

### (4) 役員等の報酬

区 分	人 数	報酬等の総額(千円)	備 考
理 事	6名	20,744	
監 事	2名	155	
評議員	8名	155	
選考委員	11名	155	
合 計	27名	21,209	

## 事業報告の附属明細書

### I 事業に関する記載事項

#### 1 育英奨学事業について

##### (1) 奨学金貸与人数

区分	継続 奨学生	新採用 奨学生	貸与者 合計(名)	奨学金貸与総額 (千円)	奨学金返還免除額 (千円)
大学院生	6	6	12	5,450	1,150
大学生	49	27	76	45,550	8,300
高専生	0	1	1	600	150
留学生	9	5	14	4,150	450
合計	64	39	103	55,750	10,050

##### (2) 奨学金返還者数

区分	貸与奨学金返還者 (名)	返還額 (千円)
大学院生	28	4,656
大学生	150	35,417
短大生	3	403
高専生	3	428
高校生	7	534
留学生	38	6,778
合計	229	48,216

##### (3) 奨学生集会

奨学生の研修指導の目的で8月26日～27日（1泊2日）に開催した。

来賓による講演会、環境保全活動の理解を目的とした山林保全作業、小国和紙を使った行灯づくり体験を実施した。

宿舎では奨学生による懇談会を行った。

カリキュラムは次のとおりである。

参加学生 54名

## 実施内容

1日目	全国各地より本部に集合
	【奨学事業についての理解】
	開会～理事長挨拶、参加役員の紹介、奨学生の自己紹介
	講演会 演題「自分と出会う、世界と出会う—自分を輝かせる生き方とは」 上田 紀行 氏（東京工業大学リベラルアーツセンター教授、文化人類学者、医学博士）
	郷土資料館・庭園の見学
	奨学生の懇談会
2日目	【環境保護活動への理解】
	山林保全作業（植林地の下草刈り、間伐作業の体験）
	小国和紙の行灯づくり体験
	閉会～JR長岡駅へ移動～解散

奨学生集会参加者には貸与奨学金年額のうち、2ヵ月分の返還を免除した。

### (4) その他

機関誌「山びこ」48号を刊行し、奨学生および元奨学生に配布した。

## 2 学術研究助成事業について

### (1) 研究助成

指定校から推薦された次の研究に対して、各800,000円を上限とし、総額13,600,000円の助成金を交付した。

- ① 東京大学 大学院新領域創成科学研究科 准教授 稔方 和夫  
研究題目 歴史研究支援と成果の公開のためのWebプラットフォームの構築
- ② 東京大学 大学院理学系研究科 准教授 野口 航  
研究題目 葉におけるミトコンドリア呼吸鎖と光合成系との相互作用の種間差の解析
- ③ 新潟大学 医学部総合医学教育センター 准教授 渡部 雄一郎  
研究題目 UNC13B 遺伝子が統合失調症の病態に果たす役割の解明
- ④ 新潟大学 工学部機能材料工学科 助教 為末 真吾  
研究題目 オイルフェンスへの応用を目指した種々の結合様式によるヒドロゲル／オルガノゲル間の接着

- ⑤ 新潟大学 工学部機能材料工学科 助教 石川 亮佑  
研究題目 グラフェン透明導電膜の有機無機ハイブリッド型ペロブスカイト太陽電池  
への応用に関する研究
- ⑥ 長岡技術科学大学 物質材料工学専攻 助教 戸田 智之  
研究題目 硫黄元素を導入したジエンモノマーの合成と新規架橋型ポリマーの創製
- ⑦ 長岡技術科学大学 技術支援センター 技術専門職員 宮 正光  
研究題目 ポリマーアロイ化技術を応用した耐衝撃性に優れたアクリル樹脂成形体の  
製造
- ⑧ 長岡工業高等専門学校 物質工学科 教授 村上 能規  
研究題目 金担持酸化チタン光触媒の可視光励起により発生する活性酸素種の生成機構  
の解明
- ⑨ 長岡工業高等専門学校 物質工学科 准教授 河本 絵美  
研究題目 2型糖尿病予防対策としての植物性ポリフェノール・ケルセチンの有効性と  
メカニズムの解明
- ⑩ 東北大学 理学研究科 准教授 松原 正和  
研究題目 マルチフェロイックメタマテリアルにおける非線形光学効果の研究
- ⑪ 東北大学 東北アジア研究センター 准教授 平野 直人  
研究題目 根室～歯舞群島マグマの成因解明と新型マグマの検証
- ⑫ 山形大学 大学院理工学研究科 准教授 真壁 幸樹  
研究題目 D体アミノ酸を融合したモデル蛋白質によるアミロイド阻害構造の探索
- ⑬ 福島大学 共生システム理工学類 教授 杉森 大助  
研究題目 米粉、小麦粉の物性改良ができる酵素の基礎研究
- ⑭ 信州大学 大学院医学系研究科 准教授 棚橋 浩  
研究題目 神経・筋接合に必須のレセプター蛋白 LRP4 の脳中枢神経系における役割
- ⑮ 信州大学 理学部 教授 佐藤 利幸  
研究題目 地球温暖化と外来種侵入に対する在来植物の種多様性の長期的変動の解明

- ⑯ 富山大学 大学院理工学研究部 准教授 堀野 良和  
研究題目 触媒的ジエミナルバイメタリック中間体の発生法と高効率分子変換反応の開拓
- ⑰ 東京工業大学 リベラルアーツセンター 教授 上田 紀行  
研究題目 クオータ制移行に伴う理系大学のための新日本語教育カリキュラムの開発と評価

(2) 自然環境保護活動助成

自然環境保護活動に取り組む団体に対して、各 500,000 円を上限とし、総額 4,143,000 円の助成金を交付した。

- ① 長岡野鳥の会 担当者 古川 英夫  
活動名 展示会「信濃川鳥ごよみ」の開催
- ② 特定非営利活動法人 新潟水辺の会 担当者 加藤 功  
活動名 次世代の子供たちに誇れる信濃川・千曲川にするための空撮調査  
～自然に委ね、持続可能な川との関わりを求めて～
- ③ 手づくり村相川 担当者 和田 明裕  
活動名 手づくり村相川 歴史資料館の建設
- ④ 特定非営利活動法人 新潟の科学・自然探偵団 担当者 吉田 隆  
活動名 わたしの学校にもサイエンス・サーカスがやってきた  
(中山間地や離島の小規模校における出前型環境教育・科学技術理解促進活動)
- ⑤ 特定非営利活動法人 ウッディ阿賀の会 担当者 袖山 要一  
活動名 海岸保安林保全育成活動
- ⑥ 新潟渡り鳥の会 担当者 向井 喜果  
活動名 福島潟および周辺水田におけるオオヒシクイ・コハクチョウに対する環境収容力の解明
- ⑦ 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 担当者 石橋 整司  
活動名 観光地型森林管理をテーマとする現場実践型の連続市民講座

- ⑧ 東京大学大学院理学系研究科附属植物園日光分園 担当者 清水 淳子  
活動名 地域と協働の桜調査と保全活動
- ⑨ 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林 担当者 福井 大  
活動名 天然林施業が哺乳類の森林利用や多様性におよぼす影響
- ⑩ 慶南青年カレッジ実行委員会 担当者 水元 愛香里  
活動名 日韓協働環境学習事業

(3) その他助成、支援事業

学術研究助成事業の「その他助成・支援事業」として 2,600,000 円を交付した。

- ① 東京大学基金  
大型低温重力波望遠鏡(KAGRA)プロジェクト 100 万円
- ② 公益社団法人女子プロ将棋協会 100 万円
- ③ 公益財団法人日本ユースリーダー協会 60 万円

### 3 資料館庭園運営管理事業について

- (1) 資料館「漆器館」の展示方法と内装のリニューアルを行い、展示品をテーマごとに分類してわかりやすいように配置した。  
資料館見学者は 1,995 名であった。
- (2) 当会所有の庭園および山林の遊歩道を散策しながら植物や野鳥を観察する「遊歩道散策・植物観察会」と「野鳥観察会」を 3 回開催した。植物については地元植物同好会の協力者が、野鳥については長岡野鳥の会のスタッフが案内や説明を行った。  
合計 68 名の参加があった。
- (3) 庭園内に設置されている老朽化した土橋の架け替え工事を行った。